

Canforo

No. 27

愛媛県美術館ニュースNo.27 2005

Exhibition 企画展
館蔵品による特集展示

野間 仁根 展

平成17年10月22日[土] - 12月11日[日] 月曜日休館

●会場/新館1階[企画展示室]

●観覧料/大人300円、高大生200円、小中生100円

※その他料金設定については、美術館までお問い合わせください。

芸術の秋、愛媛県美術館では郷土を代表する洋画家の一人である野間仁根(1901~79)の画業を振り返る特集展示を開催します。

野間は越智郡津倉村(旧吉海町、現今治市)の出身。明るく穏やかな瀬戸内風景や華麗な薔薇の花、様々な生き物たちの姿を多く描いた画家としてよく知られます。彼いわく「自然を如何に芸術するか」を目標に、身近な自然に多く取材し、そこから創作の発想を得ていました。その作風はどのように展開していったのでしょうか。

ここに載せた作品は、昭和3年(1928)の第15回二科展で樽牛賞を受賞し、一躍注目を浴びた初期の代表作《夜の床》(図1)です。フォーヴィスムの影響を受けた大胆で幻想的な作風は、初期の野間が得意としたところでした。続く翌年に出品し二科賞を受賞した《ぜ・ふうるむうん》とともに、彼の画業の最初の到達点を示しています。

その後、戦時中の郷里への疎開、昭和30年(1955)の二科会脱退、さらに同年の新団体「一陽会」結成一と環境が変化するに従って、作風も次第に大らかでのびやかなものへと移行していきます。そして晩年は、我々に最もなじみのある、輝くような奔放な色彩が画面を覆う童心あふれる境地へと至ります。

その創作意欲は、日本画や書の分野にまで及んでいます。野間は無類の釣好きとしても知られていますが、疎開中には友人たちと句会を結成して俳句もたしなむなど、まるで「文人」と呼んでもよいほどの多芸な人でした。彼の描く水墨画や俳画(図2)は、油彩画よりも気兼ねなく描けたからでしょう。心温まるユーモアに満ちていて、常に「なるがままに、自然に、自由に」と願った彼の精神が非常によく表れていると言えます。

展示は、当館が所蔵する油彩画・素描が中心となりますが、併せて、これまで広く知られる機会の少なかった日本画・書についても、野間の郷里、大島にある今治市吉海郷土文化センターなどが所蔵する作品により紹介します。展示総数は約80点、「洋画家」という面だけでは語れない野間の多彩な魅力に触れていただけることと思います。この展覧会が、自由で屈託のない彼の画業を再認識し、さらに新たな魅力を発見できるよい機会となることを願います。

学芸員 長井 健

著作権等の関係により図版を削除しております



図1《夜の床》昭和3年(1928)

関連事業

解説!HITONEワールド

野間仁根の作品をよく観察し、その楽しい世界を体験します。最後は野間のように俳句を作ってみましょう。

●10/30(日)・11/5(土)・11/13(日) 各13:30~15:00
対象および定員/小学5年生以上 20名・資料代/100円程度

ギャラリートーク

当日、企画展示室前にお集まりください。

●11/19(土) 14:30~

(企画展観覧券が必要です。)

申込
不要

図2《焼き芋》
昭和21年(1946) 個人蔵

聖徳太子と国宝法隆寺展

会期：平成17年8月13日(土)～9月19日(月・祝)
 休館日：8/22(月)、29(月)、9/6(火)、12(月)
 会場：新館1階[企画展示室]・2階[常設展示室1・2]
 観覧料：大人1,200円、高大生900円、小中生500円、高齢者1,000円



伊予市 古泉鹿寺出土の瓦

聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を司ると同時に、日本の仏教興隆に尽力した人物です。その聖徳太子によって創建された法隆寺は、世界最古の木造建築をはじめとする数多くの文化財を長きに渡って守り伝えてきた、まさに文化財の宝庫といえます。

今回、本展覧会を開催するにあたって、「法隆寺の至宝」「聖徳太子信仰の美術」「法隆寺と瀬戸内」という3つのセクションを設けました。ここでは、「法隆寺と瀬戸内」、特に、伊予との関係が特筆できます。奈良時代の法隆寺の縁起や財産目録である「法隆寺伽藍縁起并流記資財帳」には、当時の法隆寺の寺領や庄倉などが記されていますが、それによると伊予国には14箇所の庄倉があったことがわかります。これは、箇所数では最多数であり、古代において法隆寺と伊予とは、浅からぬ関係があったことが見て取れます。さらに、伊予、特に道後平野を中心に、法隆寺の西院伽藍で使用されていた、いわゆる法隆寺式瓦が複数出土しており、考古資料の面からも、その関係が伺えます。

本展覧会では、法隆寺の瓦とともに、これら伊予の古代の瓦を出品します。法隆寺の優れた文化財とともに、伊予の古代にも思いを馳せていただくとできれば、幸いです。

学芸員 西田 多江



《聖徳太子二王子像》(唐本御影模本)

なぞなぞ美術館にようこそ! ~わたしの視点から楽しむ三二展覧会~

会期：平成17年7月20日(水)～9月29日(木)
 休館日：7/25(月)、8/2(火)、8(月)、22(月)、29(月)、9/6(火)、12(月)、20(火)、26(月)
 会場：新館2階[特別展示室3]
 観覧料：大人300円(240円)、高大生200円(160円)

※()内は20名以上の団体割引料金。小中生・高齢者・身障者・友の会会員・企画展観覧券をお持ちの方等は無料。

美術館ではこの夏「なぞなぞ美術館にようこそ!一わたしの視点から楽しむ三二展覧会」という展覧会を開催します。今回展示されている作品は全部で8点。油彩、版画、屏風、軸、彫刻といろいろな形の作品が登場します。そして実はこの展覧会、部屋の中に入ると見ると、一見、いつもの展覧会と変わらないように見えるのですが、よく見ていくと、いつもと何か、どこか様子が違っているのです…。(それは展示室でのお楽しみ!)

今回の三二展覧会は、お客様どうし、お客さまと美術館スタッフ、美術館スタッフどうしと、展示室で「絵」を見て自由に語らえる空間を目指しています。もちろん!ひとりでのんびりと楽しむこともできます。どうぞ美術館へお越しただいて、ゆっくりと展覧会をお楽しみください。なぞなぞの答え…それはいつもひとつだけでしょうか?

主任学芸員 鈴木 有紀

著作権等の関係により
 図版を削除しております

中野和高《風景を配せる我家庭》昭和3(1928)年

夏の風物

会期：平成17年7月16日(土)～平成17年9月25日(日)
 休館日：7/19(火)、25(月)、8/2(火)、8(月)、22(月)、29(月)、9/6(火)、12(月)、20(火)
 会場：愛媛県美術館分館 郷土美術館2階
 観覧料：大人100円(80円)、高大生50円(40円)

※()内は20名以上の団体割引料金。小中生・高齢者・身障者・友の会会員等は無料。

日本画の鑑賞では一般に季節感が大切にされます。例えば、梅の花を描いた掛軸は、普通、梅の花の咲く季節に床の間に飾られます。雪景色を描いた絵を暑い夏の日に飾るのは「季節外れ」なことと見られてしまうものです。本展では、愛媛県美術館所蔵の作品の中から、初夏から晩夏・初秋にかけての、広く夏という季節にちなんだ内容の日本画を特集して紹介します。鶺鴒や金魚など夏の風物を描いたもののほか、瀑布のように夏の季語とされるものを画題にしたもの、夏に描かれたものなど、色々な形で夏に関連する内容の絵を集めています。暑い夏の日、これらの作品世界が束の間の避暑ともなれば幸いです。

主任学芸員 梶岡 秀一

著作権等の関係により
 図版を削除しております



伊藤溪水《鶺鴒図》

下村為山《柳蔭魚図》

美術体験講座

Tシャツをデザインしよう

A 平成17年6月4日(土)

B 平成17年6月5日(日)

夏が近づくとアトリエでは、Tシャツをプリントする利用者の姿がよくみられます。

今回、美術館の講座でも図案の組み合わせを楽しみながら、シルクスクリーンでオリジナルTシャツを作りました。

図柄は様々な素材、たとえばエアキャップやひも、葉っぱなどをコピーしたものを、素材の形そのままに切り取ったり、形にはとられずマチエールを生かして自由に切り取ったりして図案(原稿)を作りました。図案が決まるとシルクスクリーンの版を準備し、プリントする配置や色を考えます。配置や色によって印象が決まるので、悩んでいると受講者同士でアドバイスをしあって、版にインクをのせ刷っていきました。そうして、それぞれのセンスが光る、この夏自慢のTシャツが完成しました。みなさんもアトリエで挑戦してみませんか。

主任学芸員 石崎 三佳子

原稿を選んで
いるところ。



刷り上がり!



Gallery Talk

ギャラリートーク

毎月第2、第3土曜日 14:30~
参加費は無料ですが、観覧券が必要です。

美術をもっと楽しんで頂こうと、平成13年度から開催しているギャラリートーク。様々な専門分野の学芸員が交代で担当し、展示室で作品をご覧頂きながらお話しします。「何気なく見過ごしていた作品の面白さに気づいた」等、参加された方々には好評を頂いています。時代背景や作品をめぐるエピソードをじっくりと語ったり、参加された方々との対話から見方を深めていったりと、担当者によってアプローチも様々なので、作品や作家についてもっと知りたいという方はもちろん、他の人と意見を交わしながら作品を楽しんでみたいという方にもお勧めです。今年度からは各回のテーマを館内に掲示しています。気になるテーマがあればお気軽にご参加ください。

学芸員 箱田 千穂



I N F O R M A T I O N

体験してみませんか? 「はじめてのアトリエ」&「ちょこっと日曜アトリエ」

美術館には、自分で好きなものを自分のペースに合わせてつくることができるアトリエが2部屋あります。そこに最初から自分では制作できないという方向けの新事業が登場しました。機材の使い方や工程などを簡単な制作キットを使ってお教える「はじめてのアトリエ教室」と、ちょっとした制作体験を行う「ちょこっと日曜アトリエ」です。はじめてのアトリエ教室は、毎週火・金曜日で、6種目の中から選んで予約していただけます。また、ちょこっと日曜アトリエは、毎日曜日に行っていて、今期はフォトグラム(印画紙の上に物を置いて、光を当てて写します)です。また、内容も変化していきますので楽しみに。新事業の詳細は、ふれあいアートセンターまでお問い合わせください。

これが
フォトグラムです。



美術館日記

ただ今作品ガイドボランティア研修中!

美術館では、その日、展示室に偶然居合わせたお客様と一緒に語りながら作品鑑賞のお手伝いを行う「作品ガイドボランティア」の研修を始めています。前年度の募集に応募し、作文等の審査を経て研修されている方は現在44名。研修の前半は美術館のしくみや所蔵する作品についての理解を深め、後半の9月からはいよいよ実地研修に入ります。約半年間続く研修ですが、みなさん毎回とても熱心に取り組まれています。作品ガイドのスタートは現在10月下旬を予定。どうぞご期待ください。

主任学芸員 鈴木 有紀

この日、
作品の保存について
研修を受けました。



		8	9	10	11
展覧会					
企画展示室		聖徳太子と国宝法隆寺展 P.2 8/13(土)~9/19(月)		館藏品による特集展示 野間仁根展 P.1 10/22(土)~12/11(日)	
常設展示室	1.日本画・書			富岡鉄斎と天野方壺 10/8(土)~11/27(日)	江戸時代の松山藩絵師 松本山雪の屏風 11/29(火)~1/22(日)
	2.洋画			個性のめざめる時— 二科会の画家たち 10/8(土)~1/22(日)	
	3.現代美術	色彩のダイナミズム ~9/29(木)	 ギュスターヴ・クールベ《波》	Modern Art in Ehime 10/8(土)~1/22(日)	
特別展示室	1.西洋美術	19~20世紀の絵画・彫刻Ⅱ ~9/29(木)		19~20世紀の絵画・彫刻Ⅲ 10/8(土)~1/22(日)	
	2.福田平八郎	夏・初秋の風物 ~9/29(木)		秋の風物 10/8(土)~11/27(日)	冬の風物 11/29(火)~1/22(日)
	3.郷土作家	なぞなぞ美術館 P.2 ~9/29(木)		愛媛の二科会画家たち 10/8(土)~1/22(日)	
ハイビジョン ギャラリー		堀之内夏休み3館共同企画関連 「ウォーキング with ダイナソー」 ~8/30(火) ①10:30 タイムスリップ! 恐竜時代 ②13:30 驚異の恐竜王国		上映時間 ①10:30 ②13:30 ③15:30 ※プログラムは館内に掲示しています。	
分館		夏の風物 P.2 ~9/25(日)			


10/4(火)・5(水)は所蔵品燻蒸のため臨時休館

普及事業					
実技講座	●アトリエ入門リトグラフに挑戦 A 8/21(日)・27(土) B 8/21(日)・28(日) 各10:00~17:00(全2回) 中学生以上・各5名 ※A・Bいずれかを選択		各講座の申込方法 往復はがきに希望講座名・郵便番号・住所・氏名(フリガナ)・年齢・電話番号を記入し、開講日の2週間前までにお申し込みください。詳しくは、普及係まで。 ※定員に満たない場合は、申込締切後も受け付けています。応募多数の場合は抽選となります。		
	●大募集!!「法隆寺」探検隊 A 8/13 B 8/20 C 8/27 (各土曜日) 13:30~15:30 小学3~6年生・各20名 ※A・B・Cいずれかを選択(複数選択可)		●ミュージアム・ウォッチング ~びっくり!!を探そう~ 11/23(水・祝) 13:30~15:00 小学3~6年生・20名		
美術講座	●ジャングル美術館 9/23(金・祝) 13:30~15:30 5歳以上の親子・15組	●パタパタからくり 10/15(土) 13:30~15:00 小学3~6年生・15名	●ニードル・フェルトdeモコモコ人形 11/26(土) 10:00~15:00 中学生以上・15名	毎月第2、第3土曜日 14:30~	
美術体験講座	●8/13 色彩のダイナミズム【常展3】 ●8/20 福田平八郎・初秋の風物【特展2】	●9/10 名作・名品に隠された歴史あり!【特展3】 ●9/17 なぞなぞ美術館によこそ【特展3】			
学芸員によるギャラリートーク					

TOPICS.1

必見!展覧会のできるまで

展覧会を訪れて、その展覧会がオープンするまでに、スタッフがどのように準備をし、会場を作っていくのか、気になったことはありませんか。ただいま、美術館のホームページでは、その普段見ることのない展示の裏側を紹介する映像を公開しています。これを見れば、展覧会の楽しみ方が倍増するでしょう!



報告 平成17年度愛媛県美術館協議会

愛媛県美術館において、6月30日(木)に「平成17年度愛媛県美術館協議会」が開催されました。当日は協議会委員14名のうち、12名の委員が出席し、一色哲昭会長の議事進行により審議が進められました。会議では、<(1)平成16年度事業等の経過報告について (2)平成17年度予算及び事業について (3)中期運営計画の進捗状況について>を議題として、委員各位による熱心な審議が行なわれ、委員の方々からは、
●松山以外の地域でも本物の作品を鑑賞できる機会を作って欲しい。●学校に対して遠足等での美術館利用をもっと積極的に動きかけてはどうか。●企画展の広報について工夫して欲しい。などの意見や要望が出されました。愛媛県美術館では、今回の審議内容にもとづき事業を進めていきます。

ご利用案内 ■開館時間:9:40~18:00(入場は17:30まで) ■休館日:毎週月曜日(祝日及び振り替え休日に当たる場合は、その翌日)、12/29~1/3

アトリエ

利用時間 9:40~18:00
創作活動のできるスペース、アトリエはどなたでも自由にご利用いただけます。お申し込みは、お電話か、直接来館して予約してください。
●利用内容:版画・木工・染織・写真・粘土など
●お問い合わせ先:ふれあいアートセンター tel.089-932-0147

講堂・研修室・県民ギャラリー

講演会、研修、作品発表の会場として講堂(定員120名)、研修室(定員56名)、県民ギャラリー(12室)がご利用いただけます。料金等、詳細については、当美術館総務課まで、お問い合わせください。
【交通案内】
●JR松山駅前より道後温泉または市駅前行き市内電車で5分。「南堀端(愛媛県美術館前)」下車、徒歩1分。
●松山観光港より、リムジンバスで30分。「市駅」下車、徒歩5分。
●松山空港より車で20分。
※駐車場は、県庁西駐車場を利用することができますが、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関等のご利用をお願いします。

お知らせ

平成17年9月末まで、
毎月第1月曜日開館、翌火曜日休館
を試行しています。

ハトの声(編集後記)

7、8月にかけて美術館では、夏休み向けの事業が目白押しで、慌ただしい日々を迎えています。時間に追われながら、カンフォロの原稿をとりまとめていると、癒しのツボにはまる1枚の作品に出会いました。それは表紙に掲載している野間仁根の《焼き芋》です。束の間、現実を忘れ、気持ちを和ませてくれました。(M.I.)

愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511
<http://joho.ehime-iinet.or.jp/art/>

